

令和３年度 大阪高等学校 学校評価

１ めざす学校像

１９２７年（昭和２年）、旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人教育」を追及すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る
- ②社会性と共に基本的生活習慣の確立を図る
- ③課外活動の充実を図る
- ④進路観を掘り起こし、実現を図る

〈目指す学校づくりとして〉

- ①学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望進路の実現を図る学校
- ②生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心して安全な学校
- ③広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校
- ④３年間生活する中で満足度が高くなる学校

２ 中期的目標

１ 主体的、対話的で深い学びの実現

- ①自ら学ぶ力の育成
- ②共に学ぶ力の向上

２ 課題解決力の育成

- ①多様性を受け容れられるホームルームづくりに取り組む
- ②大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- ③生徒会執行部を中心としたより一層の自治活動推進を図る
- ④部活動をはじめとする多様な課外活動への参加促進に取り組む
- ⑤ルール遵守を基盤に、対話を軸とした学習集団の育成に取り組む

３ 選択する力の育成

- ①学年目標達成を目指し、教職員が進路支援に向けて幅広い知識習得や外部連携を円滑に行える環境を整える
- ②生徒の興味関心を広め、自らの課題を発見し、その解決に向けての自学自習や探究活動を促進する支援体制を構築する
- ③生徒が自立した社会的職業観を身につけ、進路実現に向けて「繋がる力」「繋げる力」を育成する

４ その他

- ①本校の広報活動の改善を図り、生徒・保護者・教育関係者等へのアプローチを推進する
- ②ＨＰの改良に着手する

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析〔令和３年１１月実施分〕	学校評価委員会からの意見
○「自己評価」に関して ・全家庭に保護者アンケートを郵送、無記名回答。回収率 97.4% ・全生徒アンケートは２学期期末試験最終日に実施。教員がアンケートを配布、回収。 〔１〕 生徒の自己評価 ○生徒の肯定的回答上位２項目 １）〔規律ある学校生活〕高校生に相応しい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか。 肯定評価の割合 87% ２）〔役割〕日直や係の仕事、クラス活動や学校行事の中で、自分に与えられた役割をきちんと考え果たそうとしてきたと思いますか。 肯定評価の割合 86% ○生徒の肯定的回答下位２項目 １）〔対話〕勉強や進路、部活動、学校の様子について、家族の方と話をしますか。 肯定評価の割合 78% ２）〔学習〕自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか。 肯定評価の割合 70% 〔２〕 保護者による学校評価 ○保護者の肯定的回答上位２項目 １）〔安全取組〕 登校・下校時指導や緊急メールなど、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思われますか。 肯定評価の割合 89% ２）〔総合満足度〕お子様を本校へ入学させてよかったと思われませんか。 肯定評価の割合 87% ○保護者の肯定的回答下位２項目 １）〔育友会活動〕育友会（大阪高校保護者と教職員の会）の活動への関心度 肯定評価の割合 54% ２）〔部活動顧問〕生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われませんか。 肯定的評価の割合 51% 〔３〕 教員による学校評価 ○教員の肯定的回答上位２項目 〔部活動〕 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思いますか。 肯定評価の割合 97% 〔総合満足〕保護者や生徒は、大阪高校に入学してよかったと評価していると思いますか。 肯定評価の割合 90% ○教員の肯定的回答下位２項目 〔育友会〕 育友会(大阪高校保護者と教職員の会)の活動に関心を持っていますか。 肯定的評価の割合 51% 〔自律学習〕生徒は、自分で立てた計画に沿って、自ら主体的に学習に取り組めるようになってきていると思いますか。 肯定的評価の割合 36% 【分析】 生徒の「規律ある学校生活」、保護者からの「安全取り組み」や「総合的満足度」はここ数年高評価を維持している。一方で、生徒、教員共に学習関係において課題を感じている。さらなる取り組みを推進する必要がある。	・進路指導において、より改善が必要である。 ・保護者の育友会への認知がまだ不十分なので、より工夫が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 多面的な学力の向上 ア 課題解決型プログラムの導入 イ 夏季講座の充実 (2) 指導力の向上 ア 学年会議や校務会議の充実	ア 2年生総合コース総合的学習の時間でクエストを実施(一部有志) イ 無学年制を基本とし、教員が教えたい内容を提起 ア 大学入試情報と職場内の対話を深める研修の実施	ア 全国大会を目指し活動し、学びのポートフォリオの作成 イ 講座数と参加生徒数、事後アンケートによる満足度 ア 月1回程度の研修実施後アンケート調査による満足度	ア 全国大会複数出場 準グランプリ受賞 イ 講座数 93 延べ講座受講数 1800 参加者満足度 8 割以上が高評価 ア ZOOM 等を有効活用。外部講師と連携した新しい研修。次年度、全学研修実施を予定
2 問題解決力の育成	(1) 学校行事の充実 (2) 帰属意識の向上	ア 文化祭におけるクラス参加の継続 イ 文化祭における保護者への対応 ウ 体育祭における学年ミックス参加の継続 ア 新入生歓迎会でのクラブ参加呼びかけ オープンスクールでの体験・見学 イ 担任⇒ブロック⇒学年での指導 保護者への密な連絡 ウ 着こなし指導の継続実施 エ Q-Uアンケートを活用しての学級運営	ア 工夫度の向上 イ オンラインでのライブ配信 ウ 各応援団参加 80 名 ア 加入率 60%以上 イ 出席率 98%以上 ウ 年4回以上の着こなし エ 学級満足群 50%以上	ア コロナ禍の中、全学年舞台発表実施 イ 保護者は来場できなかったが、YouTubeでの配信を行う ウ 応援団 86 名程度の生徒が参加 ア 加入率 59% イ 出席率 97.2% ウ 年5回の実施 エ 学級満足群クラス平均 48%
3 選択する力の育成	(1) 自らの課題を発見する 幅広い教養や情報 (2) 地域社会の諸問題に取り組む探究心 (3) 協働やキャリア形成意識のための基礎学力	ア 進路ガイダンス機会を各学年テーマ別に有効活用 イ 学年会議と校務分掌会議の改革と充実 ウ ラボ事業や CHOLA ゼミの実施 エ 進学前教育の推進	ア 校内の人的資源と校外の人的資源の活用機会増加 イ 学年別の年間目標ルーブリック評価を提示 ウ ラボ・CHOLA ゼミ事業により、社会の諸課題や学びに触れ、自らの課題を設定させる エ 志望進学別課題	ア 外部ガイダンスを各学年別のテーマに沿って実施 延べ 100 校以上の大学専門学校、または企業が参加 イ 進路検討の実施や戦略的学年別講和会の実施⇒進路決定率 98%の実現 ウ 卒業後の学び続ける根拠と課題の探究 エ 進学先の単位認定(科目等履修)講座の受講 延べ 10 名 進学先の入学前教育に加え、本学独自の進学前教育を提案実施(参加者 255 名)
4 その他	(1) 重点中学群・重点塾への 広報活動の工夫 (2) 教育実践の発信と HP の工夫 (3) 教育について語る場の創出	ア 出前授業の充実 イ 中学校・塾との情報交換に重点を置く ア 日々の教育活動を映像で発信 イ 探究コースの取り組みを広報の重点に ウ HP の権限を各クラブ・学年・分掌に分担する ア 教育フォーラムの開催(4 回 187 名) イ 中学校の保護者対象説明会(3 回 72 名)	ア 新規出前授業 イ 訪問回数 ア 学内情報の見える化 イ 探究コースの情報提供希望 ウ HP の訪問回数 ア 参加希望者数 イ 質問内容	ア 出前授業の依頼増加(前年比 7 校増) イ 1000 回の訪問回数(前年度同数) ア 授業を直接取材した広報活動は好評 イ 学校説明会での情報希望者増加 生徒が行う探究道場の希望者増加 ウ 昨年度と同等数 ア チラシ・ロコミによる参加者 イ 教育の内容に関する問いが多く、実りある対話の時間ができた